



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

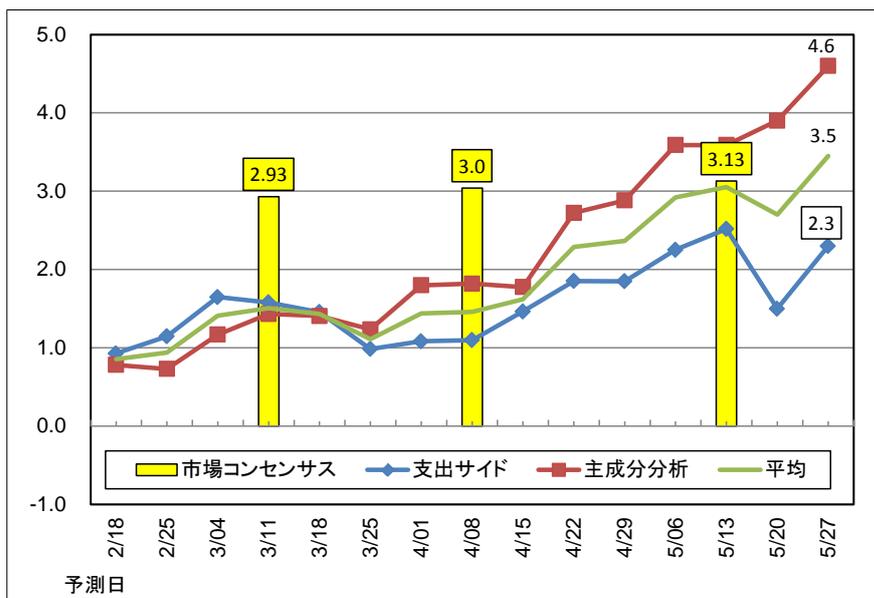
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年5月27日)

ポイント

- ▶先週(5/20-5/24)は4月の貿易統計が更新された。これらのデータは純輸出の予測に影響を与える。
- ▶先週予告したように4月の貿易統計は興味ある結果となり、貿易動向は数量ベースで明瞭に改善。
- ▶4月の貿易収支(季節調整値)は26ヵ月連続の赤字を記録したが、前月比-16.9%と2ヵ月連続で縮小。この結果、1-3月平均比-16.3%となり、貿易赤字は徐々に減少している。
- ▶4月の輸出数量(季節調整値)は1-3月平均比+5.1%、一方、輸入数量指数(同)は+2.4%と、輸出の伸びが輸入のそれを上回っている。円安の効果が徐々に出てきている。
- ▶今週のCQM(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を、内需と純輸出が引き続き拡大するため前期比年率+2.6%と予測する。先週の予測から上方修正。一方、主成分分析予測も+4.6%となり、先週から上方修正。この背景にはいずれも実質純輸出の改善がある。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年4-6月期(%, 前期比年率換算)



＜徐々に出てきた円安の効果：純輸出は4-6月期日本経済を押し上げる＞

先週(5/20-5/24)は4月の貿易統計、3月の全産業活動指数及び景気動向指数(改訂値)が更新された。これらのデータは純輸出の予測に影響を与える。

先週予告したように4月の貿易統計は興味ある結果となった。結論を先取りすると、貿易動向は数量ベースで改善がより明瞭となっている。

4月の貿易収支は-8,799億円と10ヵ月連続の赤字となり、前年同月比+69.7%拡大。季節調整値は-7,644億円と26ヵ月連続の赤字を記録したが、前月比-16.9%と2ヵ月連続で縮小した。その結果、4月の貿易赤字は1-3月期平均比-16.3%低い水準であり、貿易赤字は徐々に減少しているといえよう。

数量ベース(季節調整値)でみると改善はより明瞭である。4月の輸出数量指数は前月比+1.4%と2ヵ月連続のプラス。輸入数量は同+5.5%と2ヵ月ぶりのプラス。この結果、4月の輸出数量指数は1-3月期平均比+5.1%、輸入数量指数は1-3月期平均比+2.4%高い水準となっている。景気回復を反映して輸出入ともに拡大しているが、輸出の伸びが輸入のそれを上回っている。円安の効果が徐々に出てきているといえよう。

先週発表された月次データを更新した今週のCQM(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を、内需と純輸出が引き続き拡大するため前期比年率+2.6%と予測する。先週の予測(+1.5%)から上方修正である。一方、CQMの主成分分析予測も+4.6%と先週(+3.9%)からさらに上方修正された。この背景にはいずれも実質純輸出の改善がある。今後、補正予算効果が統計で確認されたら、日本経済は4-6月期も高成長を維持できよう。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550